

プレスリリース

2011年11月25日

削減義務を負う主要国が中心となって変動抑制を——第17回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP17)が開幕

ミュンヘン再保険は気候保全のための新たなイニシアチブを求めている。国連での話し合いが難航を極めるなか、温暖化抑制に向けた各国の動きを促進するには、削減義務を負う主要国が中心となって再生可能エネルギーへの転換に注力すべきだ。「化石燃料から再エネへの転換は急務であると同時に、商機を与える」(ミュンヘン再保険 再保険部門最高責任者 トルステン・イエヴォレック)

28日から南アフリカ・ダーバンで開幕する本会議で有効的な合意に至る可能性は薄い。気候変動で甚大な被害を受けている途上国の災害適応支援での進展は期待できるものの、枠組み問題が本会議で新たな困難に直面するのは避けられないもよう。京都議定書は、(米国や中国など)主要経済国が削減義務を負っていないにも関わらず、現在唯一の法的拘束力を持つ協約。しかし本会議がさらなる失敗を見れば、京都議定書の約束期間後に枠組みがなくなる「空白状態」が生じることになる。一方、世界の気候状況は、国際的な大幅削減努力にも関わらず改善の兆しが見られない。気候変動が人為的でこれによる影響が増大していることは、最新の科学調査でも明らかだ。二酸化炭素(CO₂)排出量が増えるなか、温暖化を抑制できると科学者が試算する気温上昇幅は、工業化以前比2度。この数値以下に抑えるのはほぼ不可能だ。

当社は40年にわたり気候変動を分析、世界の自然災害を記録したデータベースを構築してきた。現在3万件以上の災害データを蓄積している。これによると、世界の気象災害の発生数は80年比3倍に増加、洪水では3倍、暴風雨でも2倍以上増加している。

損害額はおもに、人口増や資産価値増、被災しやすい地域への人口流入など社会経済的発展に伴って増加している。しかし地震、火山噴火などの災害の発生増加がごくわずかな一方で、気象災害が著しく増加している点については、気候変動以外を要因とするのは難しい。「“気象マシン”がギアをシフトアップしているかのよう。地球温暖化による最も深刻な影響がもたらされるのはこれからだと思うが、増加傾向は過去30年のデータからでも見て取れる」(ミュンヘン再保険ジオリスク調査部門 ヘッド パーター・ヘッペ)

地球温暖化と異常気象の関係については、11月25日発表の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の特別報告書でも十分な証拠が与えられている。報告書では、保険・再保険などのリスク

移転の仕組みが、社会の災害耐性力のカギになるとしている。気候変動による災害で最も被害を受けているのは途上国だ。こうした国のリスクを移転する制度の枠組み構築を目的として(当社主導で)設立したミュンヘン気候保険イニシアチブ(MCII)などのプロジェクトが今後ますます重要になる。

当社は本会議でのさらなる失敗によって気候保全がストップしてしまうとは考えていない。国や企業が、再エネへの転換が急務であり商機にもつながるとの認識を高めているからだ。多くの企業が削減目標を高く設定することで、新産業が生まれている。再エネ転換は数年後には市場や技術進歩に大きく支えられるようになるであろうが、これは削減目標義務をもつ主要国が中心となって再エネ促進に注力してはじめて実現する。

再エネ転換には、政治的枠組みを超え、さらなる障壁を取り除かなければならない。保険業界は再エネ関連技術に関わる投融資リスクを引き受け、市場への円滑導入に寄与できる。当社は他社に先駆け同分野のリスク引き受けを行っている。ここ数年で太陽電池向け性能保証リスクや地熱開発リスク補償など再エネ関連での革新的保険ソリューションを市場に投入。さらに直接投資も行う予定で、*デザートテック構想下で進められているプロジェクトを含め、今後数年で 25 億ユーロを投資する。

*2009 年、当社とパートナー会社により設立。現在は Dii GmbH のもとで数々のプロジェクトを立ち上げている。

※当リリースに関するお問い合わせ先:

ミュンヘン再保険 広報 栗橋

03-5251-6871

ekurihashi@munichre.com

Munich Re stands for exceptional solution-based expertise, consistent risk management, financial stability and client proximity. Munich Re creates value for clients, shareholders and staff alike. In the financial year 2010, the Group – which pursues an integrated business model consisting of insurance and reinsurance – achieved a profit of €2.4bn on premium income of around €46bn. It operates in all lines of insurance, with around 47,000 employees throughout the world. With premium income of around €24bn from reinsurance alone, it is one of the world's leading reinsurers. Especially when clients require solutions for complex risks, Munich Re is a much sought-after risk carrier. Our primary insurance operations are concentrated mainly in the ERGO Insurance

Group. With premium income of over €20bn, ERGO is one of the largest insurance groups in Europe and Germany. It is the market leader in Europe in health and legal protection insurance. More than 40 million clients in over 30 countries place their trust in the services and security it provides. In international healthcare business, Munich Re pools its insurance and reinsurance operations, as well as related services, under the Munich Health brand. Munich Re's global investments amounting to €193bn are managed by MEAG, which also makes its competence available to private and institutional investors outside the Group.

Disclaimer

This press release contains forward-looking statements that are based on current assumptions and forecasts of the management of Munich Re. Known and unknown risks, uncertainties and other factors could lead to material differences between the forward-looking statements given here and the actual development, in particular the results, financial situation and performance of our Company. The Company assumes no liability to update these forward-looking statements or to conform them to future events or developments.

Munich, 25 November 2011

Münchener Rückversicherungs-Gesellschaft

Aktiengesellschaft in München

Media Relations

Königinstraße 107

80802 München